

第2期ワーカーコース受講生
募集開始!!

認知症の人との超コミュニケーション法
バリデーション・ワーカーコース

Validation Worker Course

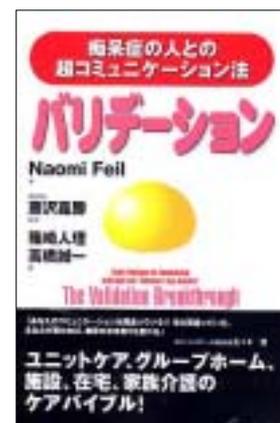
開講のご案内

2005年5月21日 ~ 2006年6月23日

東京会場&岡山会場の2コースを開講

主催 日本バリデーション研究会

書籍



ナオミ・フェイル著 / 藤沢嘉勝
監修 / 篠崎人理・高橋誠一訳
/ 筒井書房刊
価格 / 2,500 円 + 税

「バリデーション」は、認知症高齢者とのコミュニケーション法として世界で高く評価され、アメリカ合衆国、カナダ、ヨーロッパ、オーストリアの 7,000 以上の施設が採用しています。

日本では 2001 年に「バリデーション」の本(右記)が出版されて大きな反響を呼びました。2002 年の夏、バリデーション創始者のナオミ・フェイルが初めて来日し、「バリデーションセミナー」が開講されました。その後 5,800 人以上の方が受講しています。

2003 年 11 月、アジアで初めて、The Validation Training Institute, Inc.(VTI) が正式に認可する、トレーニング課程 [Level1バリデーション・ワーカーコース] が日本で開講されました。

2004 年 10 月、約 1 年間の講習を経て、第一期バリデーション・ワーカーが誕生しました。

国内では、1 年に 1 度しか開講されないトレーニングコースであり、バリデーションを深め、ワーカーの資格を得られる数少ない機会ですので、ぜひご参加ください。

2005 年 5 月、第 2 期がいよいよ開講します！

ワーカーコースの概要

バリデーション・ワーカーコースは、下記のとおり 1 年間に 6 回(各 2 日間)のスクーリングとその間の実践実習からなっています。

全 6 回のスクーリングの受講、実践実習、課題の提出、試験により合否を判定し、合格者にはバリデーション・ワーカーの資格が与えられます。

	内容(予定)
第 1 回	オリエンテーション / バリデーションで必要とされる基本的人間観
第 2 回	第 1 段階で使われるすべてのテクニックの実演と実践練習
第 3 回	第 2 段階で使われるすべてのテクニックの実演と実践練習
第 4 回	第 3 段階で使われるすべてのテクニックの実演と実践練習
第 5 回	第 4 段階で使われるすべてのテクニックの実演と実践練習 / バリデーションと他の療法との違い
第 6 回	最終試験(筆記試験・個別実技試験)

	東京会場 青山S1ビル プレゼンテーションルーム(予定)	岡山会場 笠岡市痴呆介護研修センター
第1回	2005年 5月26日(木) ~ 27日(金)	2005年 5月21日(土) ~ 22日(日)
第2回	2005年 7月21日(木) ~ 22日(金)	2005年 7月16日(土) ~ 17日(日)
第3回	2005年11月17日(木) ~ 18日(金)	2005年11月12日(土) ~ 13日(日)
第4回	2006年 1月19日(木) ~ 20日(金)	2006年 1月14日(土) ~ 15日(日)
第5回	2006年 4月20日(木) ~ 21日(金)	2006年 4月15日(土) ~ 16日(日)
第6回	2006年 6月22日(木) ~ 23日(金)	2006年 6月17日(土) ~ 18日(日)

参加者の声

何の知識も資格もなく、不安を抱えながらの受講でしたが、バリデーションからは痴呆の方への療法と同時に人間として一番大切なことを学ばせていただきました。「(介護を通しての)人生、人との付き合いは、楽しくなくては」という講師の言葉。一時的気安め、うそ、ごまかしのない共感の世界を持てた時、楽しい「付き合い」が始まるのだと身を持って知ることができました。一年間本当に充実した日々でした。義母や他のお年寄りの方たちと接することがとても楽しくなったことは言うまでもありません。1人でも多くの方にバリデーションを体験してほしいと願っています。

(主婦)

バリデーションは深い深い洞察力、そして傾聴と共感という、ケアの担い手には欠かせないものそのものでした。介護実習で学生が言葉を超えたコミュニケーションの感動を経験できるように、バリデーションでの学びを授業に生かしていきたいと思います。

(大学教員)

一年間とても充実していました。スクーリングを受け、実践を繰り返すことで、今までいかにお年寄りのニーズに気づいていなかったかということや、「バリデーション、共感とはこういうことなのか」と体感してやっと理解することができました。自分自身を真っ白にし、お年寄りの世界に入り込み共感をする。お年寄りから、たくさんのことを学ばせていただきました。

(ケアワーカー)

受講中、お年寄りと常に関われる現場で働いている受講者の方たちがとても羨ましかったです。一年間、仕事以外に時間をつくりバリデーションの実践を行うことが大変ではなかったとはいえませんが、バリデーションを通して得たことがたくさんありました。病院の診察で関わるお年寄りにバリデーションを使い、共感を持って接していたら、穏やかに生活を送られるようになった方もいらっしゃると思います。バリデーションを私の生き方の指針にしたいと思います。

(医師)

バリデーション「新しい価値観」との出会い

日本バリデーション研究会 代表 篠崎 人理
(きのこ老人保健施設 施設長)

「バリデーション」は2001年9月に初めて日本語訳で紹介されて以来、大きな反響と共感を持って受け入れられてきました。特に認知症のお年寄りとかかわる家族や介護スタッフからは、より強い支持を受けています。訳者としてもこれは大変喜ばしいことですが、なぜこのような支持を受けることになったのでしょうか？

実は10年近く前に、バリデーションはすでに日本に紹介されていたのです。しかしその時はあまり注目されませんでした。これはどうも日本のケアの成熟度に関係がありそうです。その当時、ほとんどの施設で、認知症の「問題となるやっかいな行動や行為」ばかりに注目が集まっており、その行動をコントロールすることに多くの人々の目が向いていたのです。そんな時「認知症の人に問題行動などない」「それは認知症の人が何かの要求を伝えようとしている手段なのだ」などの主張は「非現実的」で、「理想論」だと退けられたのです。

それから10年、新しい世紀を迎え、日本人の考え方も大きく変化してきました。「経済成長」と「物の豊かさ」への追求から、「心の豊かさ」へのあこがれへと大きな価値観の変化が始まったのです。それでは、「心の豊かさ」を手に入れるにはどうしたらいいのでしょうか？前世紀後半にずっと続いていた「物の豊かさへの追求」の時代には、知識が必要でした。そのため、私たちはいろいろな形で知識教育を受けてきました。より多くの情報を得、学習することによってより多くの物質的豊かさを手に入れてきたのです。ところが「心の豊かさ」はどうもこの手法ではうまくいかないことがわかってきました。知識系教育は参考書や情報があれば一人でも出来るのですが、「心の豊かさ」を手に入れるには新しい「人間観」や「価値観」が必要で、これらを学ぶには「感動や喜び、悲しみ」といった「相手」や「体験」が不可欠です。これを私たちは「知識系教育」に対して「出会い系教育」（出会い系サイトではない。念のため）「体験系教育」と呼んでいます。新世紀とともに人々の心の大きな変化が起き、バリデーションは初めて受け入れられたのです。

認知症のお年寄りとかかわりの中で、「出会い系」「体験系」教育を経験し、認知症の人の人生経験を通じて、「心の豊かさ」を学ぶ方法論として、バリデーションは今再評価されているのではないのでしょうか。

みなさんも、「自分自身の心の豊かさ」を得る方法にチャレンジしてみませんか。

講師紹介

ビッキー・クラーク・ラビン

Vicki de Klerk-Rubin

1987年より、バリデーション創始者である母、ナオミ・フェイル(Naomi Fail)のワークショップに関わり、1991年より、バリデーショントレーニング協会ヨーロッパ支部代表。ヨーロッパ各地でバリデーショントレーニングを行い、新しい研修コースの開発も担っている。日本でも第1期「ワーカーコース」を担当し、高い評価を得ている。

バリデーショントレーニング課程

バリデーションのトレーニング課程に、VTI が正式に認可する以下の4つのレベルがあります。今回開講するのは、4つのレベルのうち、Level1のワーカーコースになります。

Level 1

バリデーション・ワーカー

個人に対するバリデーションの実践や、バリデーションに興味のある人へのサポートができる。

Level 2

バリデーション・グループリーダー

グループバリデーションの実践や、Level 1 の人及びバリデーションに興味のある人へのサポートができる。また、小規模のプレゼンテーションを行うことができる。

Level 3

バリデーション・ティーチャー（講師）

VTI が正式に認可した団体(AVO: Authorized Validation Organizations)と共同で、Level 1 及び Level 2 の人および家族に対し、バリデーションのプレゼンテーションや講義、授業を行うことができる。

Level 4

バリデーション・マスター

Level 3 の人に対し、指導することができる。また、カリキュラムの見直し、本やトレーニングの資料についての推薦や修正をする事ができる。

受講にあたっての注意事項

- * 「バリデーション・ワーカーコース」の受講には、「バリデーションセミナー」の受講を済ませていることが前提となります。セミナーを受講されていない方がワーカーコースを希望される場合は、事務局までご相談ください。
- * 講義および最終実技試験には通訳がつきます。

参加費

395,000円（テキスト代、通訳費を含む）

参加費には会場までの交通費・食費・交通費は含まれません。

参加費のお支払い方法は、「第2期バリデーション・ワーカーコースの規約」及び同意書の送付時に併せてお知らせいたします。

定員

各会場30人

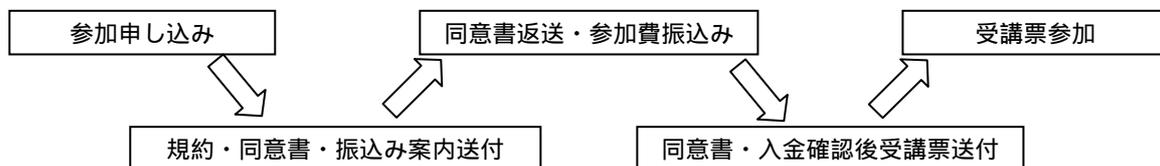
各会場とも先着順になります。定員を超えて受け付けることはできません。

締め切り

2005年3月28日(月)

申し込みから参加までの流れ

1. 要綱添付の「バリデーション・ワーカーコース受講申込書」に必要事項をご記入のうえ、FAX または郵送にてお申し込みください。受け付けは先着順とさせていただきます。
2. 募集締め切り(3月28日)以降、「第2期バリデーション・ワーカーコースの規約」、「同意書」ならびに「参加振り込みのご案内」をお送りいたします。
3. 同意書に必要事項を記入し、お写真を添付のうえ、事務局までご返送ください。同時に、参加費をお振込みください。
4. ご入金の確認ができた方から受講票をお送りいたします。参加当日は、この受講票を会場までお持ちください。



主催・お問い合わせ先

日本バリデーション研究会

【事務局】 全国コミュニティライフサポートセンター（CLC東日本）
〒981-0954 宮城県仙台市青葉区川平 5-3-18-207
TEL：022-719-9240 FAX：022-719-9251
URL：<http://www.clc-japan.com/validation/>